

令和6年度 第1回子ども部会 議事録

日 時：令和6年5月10日（金） 10：30 ～ 12：00

場 所：奄美市役所 5階会議室

参加者：川口、原田（あすなろ）、福田（にこぴあ）、座安、（のぞみ園）、西（はごろもの郷）、和田（ヒマワリクラブ）、内野（ヒマワリ就学塾）、前田（愛かな）、星村、最上、田代、仁禮（スターズ）、岡村（聖隷かがやき）、津田（ハートリハ龍郷）、窪島（希望の星学園）、向、境田、向井春、（CSA）、大海（相支：のぞみ園）、千田（相支：聖隷かがやき）、田中（奄美市教委）、渋谷（大島特支）、柳田（大島北高校）、川路、田中、塩屋（名瀬保健所）、師玉（奄美市福祉政策課）、徳田、叶、栄、津留、阪本（瀬戸内町保健福祉課）、南、福田（龍郷町子ども子育て応援課）、福崎、近藤（ぴあリンク奄美）

リモート：里（nYokki）、上野、緒方（県こども総合療育センター）

※敬称略

参加者：44名



1.参加者自己紹介

2.報告/情報提供

①事務局より（※別紙資料参照）

○令和5年度振り返り及び令和6年度計画について

②市町村行政担当より（師玉氏：奄美市福祉政策課）

○令和6年度報酬改定について

- ・市町村として対応可能なのは、個別サポート加算がつけられるかなどの判断
- ・報酬改定に伴う、指定や届出人員配置などについては、県（大島支庁）からの説明が必要

⇒別途、市町村、県（大島支庁）、同席した形での説明会を検討したい。

- ・併行利用の場合、あくまでも、個別支援計画で計画された曜日の利用のみ可。

⇒行事等が計画されているから、計画にない日を利用するように促すなどは不可。

⇒あくまでも療育でお預かりではないという意識で支援していただきたい。

③鹿児島県子ども総合療育センターより（上野氏）

○県内の先進事例について（※別紙資料参照）

- ・始良市モデルの紹介

⇒多層な連携システムの構築、プロジェクトチームの結成、アセスメントツールの導入、発達訪問チームによる訪問相談、「得意な事、苦手な事シート」の開発、困り感に対する合理的配慮を列挙した冊子の配

布、医療機関への診察に伴う、始良市独自の紹介票作成、始良市四葉の会による
学習会の実施 等

- ・奄美大島モデルの紹介

⇒コアとなる機関（相談支援事業所：県療育等支援事業受託）がつなぐ多職種連携、療育ネットワーク会議（任意団体）との連携による地域づくり。

- ・伊佐市モデル

⇒市が事業私宅費を支給し、医療機関との連携を強化

○子ども総合療育センターモデルの紹介

- ・各地域の支援体制の状況を確認、評価する。
- ・今後の地域の支援体制について検討する。

○「発達障害の地域支援システムの簡易構造評価（Q-SACCS）」の紹介

3.グループワーク

議題：奄美地区の子どもの支援に関わる方が感じている課題について

- ・就学前検査について

⇒就学前相談会の実施時期が、市町村によって統一されていない現状や、実施していない自治体もある。

⇒昨年度、のぞみ園で、保護者、保育士の3者による就学に向けた面談を実施。非常に良かった。

他の連携先と行えるように拡げていきたい。

- ・特別支援学校の巡回相談について

⇒幼稚園や保育所に情報がいきわたっていないように感じる。もっとアピールが必要。

⇒支援学校としても、入学前の様子を知りたいと思っている。

- ・地域の連携について

⇒始良市の好事例などを聞くことができて良かった。報酬改定による加算で、各事業所が連携することが評価されるようになり、良い方向に向かっていると感じる。この地域でも必要な情報を共有しながら進めていくことで良い支援に繋がっていくと思う。

- ・保護者会について

⇒保護者会に、専門家の話などがあれば、保護者も集まりやすいのではないかな。

- ・療育へのつなげ方について

⇒保護者が、支援者からストレートに療育を勧められ、落ち込んでしまうこともある。行政の保健師や相談機関等と、ある程度保護者の状況を見ながら伝え方も工夫していくことが望ましい。

- ・障がいに関する情報について

⇒発達障害に関する情報が、今はネットにあふれており、保護者が調べすぎて不安になることもある。行政などが正確な情報をまとめ、発信できる体制を検討してもよいのではないかな。

- ・学童との連携について（保護者との行き違い等）

- ・人材不足について

⇒ハローワークや口コミで募集をかけるが、時間がかかってしまう。

⇒奄美生のバイト受け入れや人権教育が必要。利用者の増加、病気等による退職など、急に人材確保が必

要な時が難しい。(人はいても、高齢、支援力に課題ありなど)

⇒専門の人材バンク等があるとよい。

・保護者理解/家族支援について

⇒特性や診断名などについては、ドクターから説明していただくように医療との連携が必要。

⇒検査では問題なし、家族としても気にならないが、園や学校で困り感が出ている場合 等

⇒障害理解が難しい場合も多いが、過度に心配する保護者もいる。

⇒家族支援の際に定期的に事業所に出向いていただき、課題について一緒に悩んだり、ニーズを確認し、具体的なゴールを保護者も一緒に考えるようにしている。

⇒設定したゴールやそのための支援等、訪問支援に行くところ（保育園、学校等）と共有し、ひとつずつ積み重ねていくことを保護者と確認することが大切。

【1G】



【2G】



【3G】



【4G】



【5G】



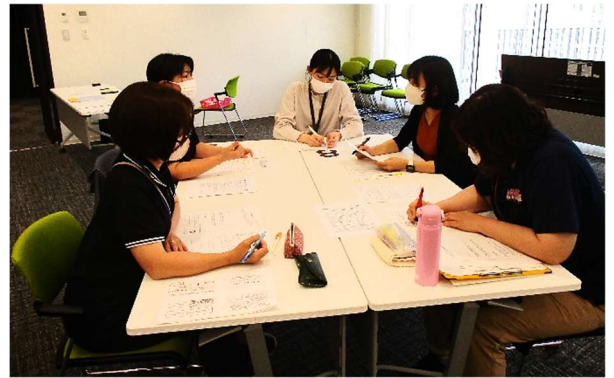
【6G】



【7G】



【8G】



【オンライン】



4.その他

○第1回そだサポ勉強会

・令和6年5月17日（金） オンライン

○北部地区子ども支援 net の開催について

・令和6年6月21日（金） 龍郷町役場 2 階会議室